

TelePresence Server と MCU Codian コンソール キャプチャの設定例

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco TelePresence Server または Cisco マルチポイント コントロール ユニット (MCU) でコンソール キャプチャを実行するための設定例を示しています。

前提条件

要件

このドキュメントで説明する設定を開始する前に、次のものを用意しておくことをお勧めします。

- PC またはラップトップ
- 端末エミュレーション ソフトウェア (PuTTY、Secure CRT、Tera Term など)
- MCU または TPS に付属する RJ45-DB9 ケーブルを使用するシリアル コンソール ケーブル
- Cisco TelePresence MCU

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Telepresence Server 7010
- Cisco TelePresence MCU 5300 シリーズ
- Cisco TelePresence MCU 4500 シリーズ
- Cisco TelePresence MCU 4200 シリーズ

- Cisco TelePresence ISDN Gateway シリーズ
- Cisco TelePresence MSE (Mobility Services Engine) 8000 シリーズ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、お客様に Cisco TelePresence Server または MCU からコンソール キャプチャを取得するようにお願いすることがよくあります。このデータの必要性は、通常、お客様が問題をトラブルシューティングする際に、予期しない再起動を含めるために発生します。

コンソール キャプチャによって、問題事象が発生した際に詳細なシステム情報が提供されます。このキャプチャは、端末エミュレーション ソフトウェアによって実現されます。出力は、PC または他の取得可能な場所に保存されたテキスト ファイルに記録する必要があります。接続をセツトアップする際、コンソール接続がタイムアウトすることのないようにコンソール接続を設定してください。

注: この設定例で使用されている端末エミュレーション ソフトウェアは PuTTY です。Secure CRT、TeraTerm、およびその他の端末エミュレーション ソフトウェアも使用できますが、構成時の設定をソフトウェアに応じて調整する必要があります。

設定

注: この記事では、MCU または TPS への物理的なコンソール接続があることを前提としています。これらの設定の詳細については、Cisco の記事「[シスコによって獲得された Codian ユニット上のコンソール ポートへの接続](#)」を参照してください。

コンソールを設定するには、次の手順を実行します。

1. PuTTY を開き、次に示すように、デバイスの適切な COM ポートを使用してシリアル コンソール接続を指定します。

注: これらの設定の詳細については、Cisco の記事「[シスコによって獲得された Codian ユニット上のコンソール ポートへの接続](#)」を参照してください。

2. セッションですべての出力をテキスト ファイルに保存するようにセッションを設定します。データが失われないことを保証するために、次の手順を実行することをお勧めします。

[Session] > [Logging] に移動し、[All session output] および [Always append to the end of it] の各チェック ボックスをオンにします。

[Log file name] セクションで、デスクトップに位置付けて、覚えやすいファイル名 (MyConsoleCapture.log など) を付けます。

3. コンソール セッションがタイムアウトしないようにコンソール セッションを設定します。問題とロギングの性質によっては、セッションを長時間実行することが必要になる場合があります。ターミナル ソフトウェアでキープアライブを設定するには、次の手順を実行します。

[PuTTY Configuration] ウィンドウで [Connection] カテゴリに移動します。

[Options controlling the connection] セクションで、[Seconds between keepalives (0 to turn off)] フィールドに適切な値を入力します。注: この例では、キープアライブ インターバルが 30 秒に設定されています。この値は高いように思われるかもしれませんが、この接続を他のトラフィックが流れることはないため、この設定によりこのセッションの維持が保証されます。最終的には、ニーズに最適なインターバルの値を選択できます。ただし、セッションが MCU または TPS でタイムアウトした後 0.5 秒でキープアライブが発生する場合の、タイミングの問題を回避するために、MCU または TPS で 60 分未満のタイムアウト値で、この値を設定することをお勧めします。

4. [Open] をクリックして、この接続を開きます。
5. 接続が MCU によって閉じられないことを確認するには、次の手順を実行します。

MCU で [Settings] > [Security] > [Serial Console Settings] に移動します。

チェック ボックスの [Hide log messages on serial console]、[Disable serial console input during startup]、および [Require administrator login] をオフにします。

[Update console settings] をクリックします。注: シリアル コンソールの設定は、MCU でのみ構成できます。つまり、これらの設定は、TelePresence Server では構成できません。**オプションのセキュリティ対策**この設定プロセスでは、コンソールのセキュリティ リスクが生じます。必要な場合、MCU の場所を保護するために次の画面で特別な対策を講じます。

確認

設定が正しく機能している場合は、PuTTY のコンソール画面に出力が受信されます。これは、デバイスが使用中であるかどうかによって異なります。デバイスの Web インターフェイスから設定の変更を行うと、最低でも、コンソールに出力されるログが表示されます (イベント ログに類似)。

トラブルシューティング

以下の問題は、発生する可能性のある最も一般的な 3 つの問題です。

- **正しくないか、または不良のケーブルが使用された。** デバイスに付属したケーブルを使用していることを確認します。ケーブルが不良な場合は、修理することができます。ピン割り当ての詳細については、Cisco の記事「[シスコによって獲得された Codian のシリアルケーブルのピン割り当て](#)」を参照してください。
- **認識できない文字がコンソール画面に表示される。** これは、ボーレートが誤って設定されていることを示しています。ボーレートは 2 の倍数であるため、正しい設定が見つかるまで、必要に応じて値を倍にしたり半分にしたりできます。ただし、この場合、正しい設定は 38,400 です。
- **ターミナル エミュレーション ソフトウェアに接続できない。** この問題は、ケーブルの問題に加えて、通常次のいずれかの問題が原因で発生します。

Telnet またはセキュア シェル (SSH) で接続しようとしている場合、接続タイプをシリアルに変更しなければならない。

COM ポートが誤っている。PC で USB ベースのシリアル接続で使用している COM ポートを調べるには、[Control Panel] > [Device Manager] に移動して、[Ports] をクリックします。表示されたウィンドウから、USB シリアル デバイスに割り当てられている COM ポートを確認できます。

シリアル デバイス用のドライバをインストールしていない。この場合、それらのドライバを見つけてインストールしてください。